

卒業の準備 その2

「ファイト！」 中島みゆき

あたし中卒やからね 仕事をもらわれへんのやと書いた
女の子の手紙の文字は とがりながらふるえている
ガキの癖にと頬を打たれ 少年たちの眼が年を取る
悔しさを握りしめすぎた こぶしのなか 爪が突き刺さる

私、本当は目撃したんです 昨日電車の駅 階段で
転がり落ちた子供と つきとばした女の薄笑い
私、驚いてしまって 助けもせず叫びもしなかった
ただ恐くて逃げました 私の敵は私です

ファイト！闘う君の唄を
闘わない奴等が笑うだろう
ファイト！冷たい水の中を
ふるえながらのぼってゆけ

暗い水の流れに打たれながら 魚たちのぼってゆく
光っているのは傷ついてはがれかけた鱗が揺れるから
いっそ水の流れに身を任せ 流れ落ちてしまえば楽なのにね
やせこけて そんなにやせこけて魚たちのぼってゆく

勝つか負けるかそれはわからない それでもとにかく闘いの
出場通知を抱きしめて あいつは海になりました

ファイト！闘う君の唄を
闘わない奴等が笑うだろう
ファイト！冷たい水の中を
ふるえながらのぼってゆけ

薄情もんが田舎の町に あと足で砂場かけるって言われてさ
出てくならお前の身内も住めんようにしちやるって言われてさ

うっかり燃やしたことにしてやっぱり燃やせんかったこの切符
あんたに送るけんもってよ 滲んだ文字 東京ゆき

ファイト！闘う君の唄を
闘わない奴等が笑うだろう
ファイト！冷たい水の中を
ふるえながらのぼってゆけ

あたし男だったらよかったわ 力づくで男の思うままに
ならずすんだかもしれないだけ あたし男に生まれればよかったわ
ああ小鳥たちの群れきらきらと 海の中の国境を越えてゆく
諦めという名の鎖を 身をよじってほどいてゆく

ファイト！闘う君の唄を
闘わない奴等が笑うだろう
ファイト！冷たい水の中を
ふるえながらのぼってゆけ
ファイト！

卒業生に送る歌です。

ラトブの学習室に一人、眼をこすりながら単語と格闘し、分からない構文をとにかく無理やり詰め込んで、受けた模擬試験の点数が20点で、どのみちこれぐらいの結果しか生まれないなら、一浪したほうが良いという悪魔のささやきを否定しつつ、朝何も言わない母親の後姿を見ると、いつの間にか年を取ったなと思い、作ってくれた弁当を持って外に走り出す。こんなことならもう少し勉強しておくべきだったと後悔したところで、時間は元に戻ることはなく、後輩たちの活躍を横目で見て、あと何日の時間という言葉に焦燥感をもって憔悴する。とにかく戦わなければ始まらないので、悔しくて悔しくて悔しくても冷たい風の中、最終電車で帰る。あっという間に朝になり、あっという間に2月になった。都会の風は、思ったより冷たく、結果が気になるが、とにかく親に迷惑はかけられないとうまくいかなくてもどうにかしなければならぬ心ばかりが縮こまる。

ファイト！闘う君の唄を闘わない奴等が笑うだろう
ファイト！冷たい水の中をふるえながらのぼってゆけ
ファイト！最後までやらないとわからないぞ。やったものだけがわかる。やり切ったものから卒業である。やり切って卒業すると次の扉が開く。
ファイト！闘う君の唄を闘わない奴等が笑うだろう
ファイト！冷たい水の中をふるえながらのぼってゆけ